

過越の中のキリスト

CHRIST
IN THE
PASSOVER

WHY IS THIS NIGHT DIFFERENT?



CEIL and MOISHE ROSEN

シール、モイシェ・ローゼン著



伝道出版社

過越の中のキリスト

その夜はなぜ違うのか

シール&モイシェ・ローゼン著

CHRIST
IN THE
PASSEOVER

WHY IS THIS NIGHT DIFFERENT?

by

Ceil and Moishe Rosen

Publishers

MOODY PRESS
CHICAGO

Evangelical Publishers
Tokyo, Japan

はじめに

みなさんはご自分の聖書を通読しておられます——何の問題もなく。

やがて、みなさんは、「過越の祭り」や「パン種」、「種なしパンの祝い」などといったことばに出会われます。みなさんは気にも留めずにそれらのことばを読み過ごされます。そのうち、次第に興味を失ってしまわれます。

みなさんが過越の祭りについて十分ご存知でないことが、問題の一つかもしれません。しかし、もしあなたが正統派のユダヤ人であれば、過越に関するあなたの知識は、聖書を読むときには役立つことでしょう。

この「過越の中のキリスト」は、みなさんを正統派のユダヤ人にしようとしているわけではありません。過越の祭りについての興味深い情報を伝えし、それが自分とどのような関係があるのかを理解していただくのが目的です。また、これらの情報は、みなさんが過越の小羊としてのメシヤなるキリストを見るうえでも役立つことでしょう。

目 次

序 章	「耳のある者は聞きなさい」	5
第一章	なぜ「過越の祭り」なのか	11
第二章	エジプトにおける過越の祭り	18
第三章	神の実地教育としての過越の祭り	25
第四章	寝ずの番をする夜	37
第五章	キリスト時代の過越の祭り	48
第六章	昔の過越の祝いと最後の晩餐	59
第七章	現代の過越の祭り	77
第八章	現代の過越の祝い	91
第九章	五番目の質問	110
第十章	祝宴に来たれ	120

序 章

「耳のある者は聞きなさい」（マタイ一一・15）。

「ユダヤ民族は神に選ばれた民である！」これは避けることのできない聖書の教えである。しかし、このように述べただけで、多くの人々が当惑してしまう。イスラエルの選びとということについて、最も困惑するのはユダヤ人たち自身である。選ばれることは非常に光榮なことだが、その期待にこたえるのは並大抵のことではない。そこで、次のように考える者すらいる。「どうして私たちが選ばれたのか。もし神によって選ばれることが、私たち民族が経験してきたような苦しみや迫害に遭うことを意味するならば、他の民族が選ばれたほうが私たちにとってよかつたのではないか」。それにもかかわらず、神はイスラエルをお選びになつた。神は単なるお気に入りの民として、甘やかしたり、えこひいきするために彼らを選ばれたのではないし、苦難や迫害に遭わせるために選ばれたのでもない。

主は、ご自身を全世界の人々に教えるため、すなわち生ける唯一のまことの神の存在を証言せらるるためにイスラエルを選ばれた。

「あなたがたはわたしの証人、——主の御告げ。——わたしが選んだわたしのしもべである。……わたし、このわたしが、主であつて、……あなたがたはわたしの証人。——主の御告げ。——わたしは神だ」（イザヤ四三・10—12）。

主は、ご自分の愛と真実を示すためにイスラエルを選ばれた。

「主があなたがたを恋い慕つて、あなたがたを選ばれたのは、あなたがたがどの民よりも数が多くつたからではない。事実、あなたがたは、すべての国々の民のうちで最も数が少なかつた。しかし、主があなたがたを愛されたから、また、あなたがたの先祖たちに誓われた誓いを守られたから、主は、……あなたがたを連れ出し、……」（申命記七・7、8）。

主は、アブラハムの子孫をとおしてすべての民族が祝福されるためにイスラエルを選ばれた。

「主はアブラムに仰せられた。『……わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、……地上のすべての民族は、あなたによつて祝福される』」（創世記一二・1—3）。

主は、ご自分の栄光のためにイスラエルを選ばれた。

「わたしのために造ったこの民はわたしの栄誉を宣べ伝えよう」（イザヤ四三・21）。

主は、全人類に救いをもたらすためにイスラエルを選ばれた。

「救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知つて礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています」（ヨハネ四・22）。

聖書も、神の約束も、^{あがな}贖い主も、イスラエルをとおして与えられたのである。ときどき、イスラエルは「教師」にもなつた（彼らが自分でそう望んだのではなかつたが）。ときどき、イスラエルは道を踏み外した。しかし、神は、ご自分のことを学びたい人々のための具体的な教訓として、信仰の堕落や不従順でさえ用いられたのである。かつてのヨナのように、選ばれた民は、いろいろな方

法で神に仕えていくであろう。神に仕える喜びは従順と切っても切れない関係にあるが、望もうが望むまいが、イスラエルは主に仕えていくのである。

昔のイスラエルに降りかかったことはすべて、今日における神の民と直接関係がある。使徒パウロは、コリント人への手紙第一、一〇章一一節で次のように述べている。「これらのことが彼ら（イスラエル）に起ったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです」。

聖書の民であるイスラエルが、国家として、また個人として行つたことは、今日における私たちへの教訓となり得る。神の民イスラエルの歴史を通じ、神はその全能の御手をもつてご自分の民を教え、導き、ご自分の民に願われていていることを示しておられる。イスラエルの伝統や慣習は、歴史学者や人類学者たちだけが研究する「風変わりでおもしろい習俗」以上のものである。その歴史は、過去の記念碑であると同時に、未来への道しるべもある。

主の特別な民イスラエルが織りなす歴史をとおして、神は全人類に次のことを示しておられる。

一、生まれながらの人間の心は不完全な状態であり、神を喜ばせることができない。

二、神は喜んで赦しと回復を与えてくださる。

三、神が用意された道は、すべての人がそのみもとに行くことのできる道である。

四、神の愛は真実で絶えることがない。

信仰深いアブラハムの腰（創世記三五・11、出エジプト記一・5参照）から、神はこの特別な民を興された。主はアブラハムを異教と偶像礼拝の地から召し出され、彼の子孫は異邦人の模範となるべき偉大な民族となつた。主はその特別な民に律法と土地をお与えになつた。神は、創造のみわざと創造主ご自身を覚るために安息日を守るよう命じられ、また、毎年七つの例祭を執り行うよう定められた（レビ記二三・5—44）。まず最初に、イスラエル自身が自らの歴史から学び、唯一まことの神を知つて、そのお方に信頼すべきであつた。そして次に、ユダヤ民族に対する神のお取り扱いを知ることによって、すべての民が偶像礼拝と罪から立ち返り、創造主のうちにある救いの信仰へと向かうべきであつた。

聖書の中の教えや出来事には、しばしば多くの意味がある。明らかにその当時の出来事でありながら、一つまたはそれ以上の預言的なことばになつたり、靈的な適用が可能になつたりする。主がイスラエルにお与えになつた昔の祭りは、未来に起こるさらに偉大な出来事の影を投げかけていた。これらの例祭は次の三つの観点から見ることができる。すなわち、まず、その当時の農業文化に基づいた季節の祝い。次に、国家に対する神の歴史的なお取り扱いを覚えるためのもの。最後に、未來における（預言の）成就である。

神は、天地万物にお命じになつて自然界に季節をもたらされるように、人類を救うための計画と